

緊急消防援助隊第2回全国合同訓練について

総務省消防庁

1 はじめに

平成7年1月17日に発生した阪神・淡路大震災では、地元消防本部、消防団、消防庁長官の要請により出動した全国の消防機関が不眠不休で消火、救急、救助活動に従事したが、戦後最大規模の地震災害であった同震災では、広域消防応援活動のあり方について様々な教訓を残した。

緊急消防援助隊は、これらの教訓を踏まえ、国内で発生した大規模災害時の人命救助活動をより効果的かつ充実するため、全国の消防機関相互による迅速な広域消防応援体制として平成7年6月に整備されたものである。

2. 全国合同訓練実施の経緯

緊急消防援助隊は、平成7年の発足後、車両、資機材の整備に取り組むとともに、平成7年11月の第1回全国合同訓練をはじめ、各地域ブロックごとにブロック合同訓練を行い活動体制の強化を図るとともに、長野・新潟県境付近で発生した土石流災害での救助活動、岩手県内陸北部地震での被害情報収集、有珠山の噴火災害での住民救助及び鳥取県西部地震での被害情報収集に出動してきたところである。

今回の緊急消防援助隊第2回全国合同訓練は、発足後から現在まで整備を行ってきた、緊急消防援助隊の活動体制の再検証を行うとともに、新たな世紀を迎える広域的な消防防災体制の姿を国民に認識していただくため、自治省消防庁、全国消防長会主催により、東京都江東区有明二丁目の東京都港湾局用地において、皇太子殿下をお迎えして実施したものである。

3. 全国合同訓練の規模

今回の全国合同訓練には、全国148消防本部から、1,922名の隊員、消防ポンプ自動車、救助工作車、救急車など189台、消防・防災ヘリコプターユ7機が参加し、大規模地震災害発生に対応した機動的な訓練を展開した。



写真1 がれき下車両救出救護訓練

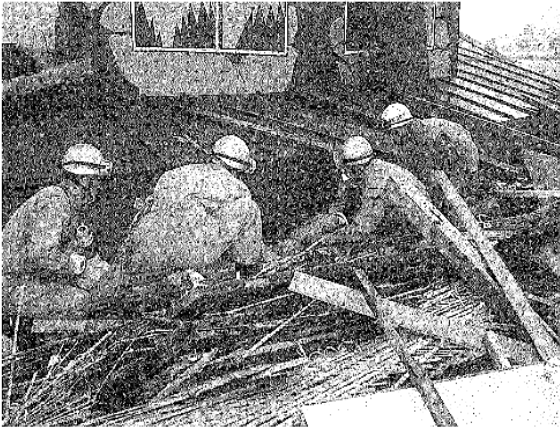


写真2 木造倒壊建物救出救護訓練

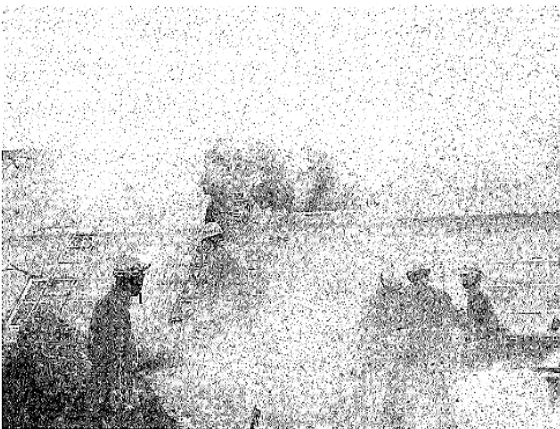


写真3 倒壊ビル救出救護訓練

4. 全国合同訓練の概要

(1) 事前訓練, 野営訓練(10月23日)

大規模地震災害が発生したとの想定に基づき, 消防庁長官の要請により全国から出動した部隊は, 車両部隊が東京都江東区有明の訓練会場に, 消防・防災ヘリコプターは, 東京都江東区豊洲の臨時離着陸場に続々と参集した。

車両部隊は, 正午までに全隊が有明会場に参集を完了し, 後方支援部隊隊員が, 直ちにテント設営等野営訓練の準備に入った。

続いて午後1時より, 雨衣を着用した訓練参加隊員が訓練会場に集合し, 開会式, 閉会式の予行訓練, 各訓練項目ごとの個別訓練等を順次行い, 翌日の訓練に備え, 訓練施設の確認等を行った。

午後5時より, 各テントごとに野営訓練に入り, 持参した食料等を野営用調理器により自炊を行いつつ, 訓練に参加する部隊間での情報交換等を行った。また, 激しい雨の中, 自治大臣, 自治政務次官, 消防庁長官, 全国消防長会会長が訓練参加隊員の激励に訪れ, 全隊員整列の中, 自治大臣, 全国消防長会会長が激励の挨拶を行った後, 自治政務次官, 消防庁長官, 全国消防長会会長は, 各テントをそれぞれ視察し, 荒天のなか野営訓練を行う参加頼をねぎらった。

(2) 合同訓練(10月24日)

午前10時00分に, 皇太子殿下は全隊員が整列する中, 消防庁長官のこ先



写真4 高層建物救出救護訓練



写真5 危険物火災対応訓練

導により御席に着かれ、開会式が行われた。

開会式は、まず、東京消防庁音楽隊が鎮魂の楽曲を演奏するなか、全員で殉職された消防職員・団員に黙とうを捧げた。

消防庁次長による開式宣言、国歌演奏、国旗掲揚の後、主催者を代表して、自治大臣（代読自治総括政務次官）が挨拶を行い、続いて、皇太子殿下が緊急消防援助隊に対す

る期待と訓練参加隊員への励ましのお言葉を述べられた。

その後、内閣総理大臣（代読内閣官房副長官）から「消防に寄せられる国民の期待の大きさを的確に受け止め、国民生活の安全の確保のためにその使命を尽くしていただきたい。」旨の祝辞が述べられ、全国消防長会会長からは、「消防使命の重要性を深く認識し、あらゆる災害に即応できるよう今後とも一層の技術の錬磨と研鑽を重ね、国民の信頼と期待に応えられることを強く切望する。」旨の訓辞が行われた。

次に、消防庁長官、全国消防長会会長が点検者として、会場に整列した緊急消防援助隊各部隊の部隊点検を行った。

部隊点検終了後、皇太子殿下が消防資機

材展示を御視察になり、有珠山噴火災害に派遣された緊急消防援助隊の車両等の消防資機材、海外での大規模災害発生時に派遣される国際消防救助隊（IRT）の救助訓練を、消防庁長官、全国消防長会会長のご説明により熱心にご覧になられるとともに、緊急消防援助隊、国際消防救助隊の活動状況などをお聞きになるため、有珠山噴火災害

時の緊急消防援助隊指揮支援部隊長であった、札幌市消防局の松井署長以下の各隊員に親しくお声をかけられた。

午前10時35分、東京消防庁音楽隊のファンファーレとともに全国合同訓練が開始され、およそ100分にわたる19の訓練が開始された。今回の訓練では、①災害発生直後の初動活動である先遣隊活動訓練、指揮支援本部運用訓練、②がれき下車両、列車事故、



写真6 ヘリ搬送傷病者搬送訓練



写真7 ヘリコプター空中消火訓練

倒壊ビル等からの救出救護訓練, ③危険物火災, 毒・劇物への対応訓練, ④ヘリコプターによる傷病者搬送, 空中消火訓練等, 大規模地震災害を想定した実戦的な訓練を行った。

皇太子殿下は, 今回のような大規模消防訓練への行啓は初めてでもあり, 消防庁長官, 全国消防長会会長のご説明をお受けになりながら, 訓練を熱心にご覧になられ, 消防活動へのご理解を深められたご様子であった。

午後12時22分, ご視察を終えられた皇太子殿下は自治総括政務次官, 消防庁長官, 全国消防長会会長のお見送りのもと, 訓練会場を御発になられた。

合同訓練終了後, 午後12時25分より行われた閉会式では, 消防庁長官より, 「緊急消防援助隊は我が国の広域消防応援の要であります。全国の各部隊が, 今回の合同訓練の開催を契機に, それぞれの都道府県やブロックごとに, 広域的な連携による実戦的な訓練をさらに積み重ねていただくよう期待します。」との講評を述べた後, 国旗が降納され, 全国消防長会副会長が閉式宣言を行い, もって2日間にわたる合同訓練は成功裡に終

了した。

